

こんごういん ニュース 金剛院 NEWS

江戸の粋を満喫した「和を楽しむ会」

地域やお寺にご縁のある女性をお招きして「和を楽しむ会」が開かれました。
江戸の粋を楽しみながら和気あいあい、地域の「輪」が広がったひとときでした。



和服姿もあてやかな舞草娘の皆さんを囲んで記念撮影。



↑ 舞草さん(左) 皆さんの華やかな舞。七助さんと紫沙さんの「かつほれ」は母国もひっそり。
↓ 女性にはたまらない「和のスイーツバイキング」に思わず笑みがこぼれます。



梅雨の中休みとなった6月11日、お寺の庫裏に粋な三味線の調べと、女性たちの明るい笑い声が響きました。

会場にはお茶とお菓子が準備され、参加者は和やかに談笑しながら開演を待ちます。ほどなく色鮮やかな振袖姿の「お姉さん」が登場すると、一斉に大きな拍手と「きれいねえ〜!」「すてき!」の声。この日お寺にやって来たのは、浅草花柳界で活躍する芸妓さんたち。まず一同揃ってのご挨拶、記念写真や歓談の「交流タイム」の後、いよいよ皆さんの芸が披露されました。

まず「地方さん」と呼ばれる紫

沙さんの、しっとり艶のある三味線と唄、振袖さんの華やかな踊りに続いて、地元・豊島区出身で現在日本にわずか4人しかいないという「幫間さん(たいこもち)」・櫻川七助さんが登場。軽妙な話術と楽しい芸を披露しました。終盤には皆さん一緒になってのお座敷遊び。座は大いに盛り上がり、笑顔の「輪」が広がったひとときとなりました。



ツーショット撮影にひっぱりだこの芸妓さん(左)。昇舟を挟んだジャンケン「虎々拳(とらとらけん)」(中)、「投扇舞(とうせんきょう)」(右)などのお座敷遊びも。



しっとりしたお寺の緑も青々然。『舞草中巻にきた気分!』という声も。

昭和9年に建てられた庫裏は、戦災にもあわず80年目という「和」の象徴みたいですね。「和」というと、意見が違っても波風を立てずに妥協していくことと思いませんか?ところが「和」の本当の意味は、個々もっているものをすべて出し、それを尊重して共にぶつけ合いながら、もっと良いものを生み出していくことだそうです。そんな「和の心」で地域の「人の輪」が繋がっていくと素敵ですね。(住職記)

